

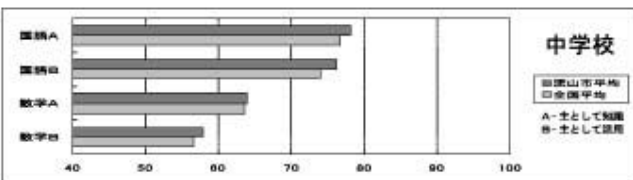
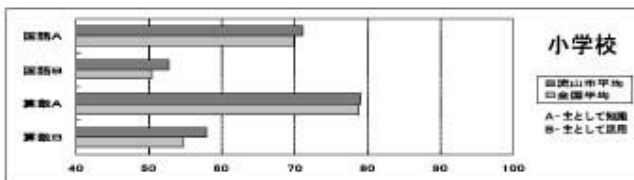
確かな学力を育てるために

※この調査結果は学力の一部を示しているものです

21年度 全国学力・学習状況調査結果より — 教科に関する調査から —

小学校 — 流山市は算数Aでわずかに県の平均正答率を下回ったものの、その他は国語、算数ともに県・全国平均正答率を上回っています。

中学校 — 流山市は全てで、県・全国平均を上回っています。



サポート教員とともに、
きめ細かな指導を目指します

「数学・算数の授業の内容はよくわかりますか」という設問に「よくわかる」と回答した児童・生徒が増えました。各学校では、算数や数学の授業の中に、「学校サポート教員」が入り、個別に指導したり、担任と協力した指導を行ったりして、一人一人の子どもたちに目を向けた、きめ細かな授業を行っています。また、各学校の学力の実態把握のもと、校内研修を通じて、指導方法、指導内容などを工夫し、基礎・基本の定着を図っています。これからも「楽しい」「わかる」授業を目指します。

3年間を通して「おおむね良好」～分析結果をもとに「確かな学力」の育成を目指します～

学校・家庭・地域、みんなで落ち着いた生活を目指します

流山の子ども達は全国・県より早寝早起きをしている子が多いこと、TV・DVDの視聴時間が短いことがいえます。携帯電話の所有率については減っていますが、全国に比べ高いのが実情です。しかし、昨年と比べ、小中学校とも携帯電話ではほぼ毎日通話やメールをする児童・生徒が減っています。きちんとした生活習慣が身に付くことは、落ち着いた生活につながり、学力の向上に結びつくと考えられます。過去3回の結果から、規則正しい生活など生活習慣と正答率が密接に関係していることが分かりました。

また、家の人と学校での出来事について、よく話をしている児童生徒の方が正答率が高い傾向がみられます。家庭での子どもたちとの語らいの大切さは、こんなことからわかります。

音読・朗読・読み聞かせ
読書活動を広げます

「毎日、10分以上読書している」「読書が好き」と答える児童生徒ほど正答率が高い傾向にあります。このことから、「朝読書」など、短い時間でも毎日読書を継続することは国語の力をつけることにつながるようです。

各学校では、地域の方や保護者による読み聞かせ、「音読ながれやま」の活用など工夫した取り組みを行っています。「音読ながれやま」の中学校版も作成中です。落ち着いた学習に取り組むことや、心を育てるためにも、読書活動をますます広げていきます。

きみが見つかる物語

～朝読活動 東深井中学校～



きみが見つかる物語 (あさのあつこ、恩田陸 他)
風が強く吹いている (三浦しをん)
ルーンの子どもたち (ジョン・ミンヒ)
G ボーイズ冬戦争 (石田衣良)
読むべきなリップ (みなづき未来)

東深井中学校の朝の読書の時間に3年生の教室で読まれている本の題名の一部です。ジャンルも様々、買ったり、図書館で借りたり、友達に薦められたりや選んだわけも様々です。

東深井中学校が全校で朝の20分読書に取り組み始めたのは10年ほど前からです。先生も生徒といっしょに、どんなジャンルの本でもいいから読むという活動は、朝から落ち着いた一日をスタートできるという効果をもたらしています。本を読むきっかけを得た生徒も多く、また読書の習慣や集中力がつき、よく読む子は月に7冊ぐらい読むそうです。これからは、読む本のジャンルの幅を広げていきたいと担当の先生は話されていました。

音読の響く教室

～八木南小学校～

火曜日の朝は、全校一斉の音読の時間です。グループや個人、教室いっぱい広がりながら群読など読み方は様々です。

八木南小では2月に、音読を楽しみ、読書に対する関心を高めるために音読大会を開催しています。10年も前から続いている取り組みで、運営は図書委員会の児童が行っています。児童全員が個人やグループで参加します。コンテスト形式になっており、校長先生を始め先生たちが審査員になり各学年の最優秀チームを選びます。子どもたちは、声の大きさや間、連発、気持ちの表現などに気をつけながら、最優秀賞を目指してがんばるそうです。

八木南小学校の音読の質の高さと広がりを感じさせる取り組みです。9月の東葛飾地方の学校の教頭会研究大会では代表の児童たちが音読を披露しました。



教室の四隅に分かれて群読

先生たちの研修会

～子どものための授業を目指して～

小中学校の先生が参加して、8月6日に理科好きな子どもを育てる研修会が行われました。子どもたちにもっともつと理科を好きになってもらうと、楽しい実験や正しい顕微鏡の使い方、使いやすい理科室の整備の仕方などについて研修を深めました。自分で作った空気砲でろうそくの灯を消す実験などに夢中で取り組みました。

また、若手教員対象の教師力UP講座第4回では、日本経済新聞社編集局産業部次長の大西康之さんに「伝える言葉の選び方」について話していただきました。相手に伝えたい事柄を簡潔な見出しにする演習などの研修をする熱気にあふれる先生方の姿が見られました。



空気砲で実験中



必死に見出しを考え中

子どもたちに確かな力を ～実り多き実践の紹介～

駆け抜けた32km

～第63回東葛飾中学校駅伝大会～

10月17日(土)、駅伝には絶好の曇り空の下、70校(4校が兼権)が参加して東葛飾中学校駅伝大会が行われました。昭和23年に第1回が開催され、今年で63回目の大会は、野田陸上競技場と松戸中部小学校間32kmを10名のランナーがたすきをつないで駆け抜けました。

今年も新型インフルエンザによる学級や学年、学校閉鎖が相次ぎ、各校がコンディション作りに苦労する中で大会でしたが、流山の中学校は全校、完走を果たしました。沿道での熱心な応援、ありがとうございました。

入賞校 8位 東部中、10位 西初石中



育て！科学する目

～県科学作品展 東深井小学校と流山北小学校が学校賞を受賞～

10月17、18日に千葉県児童生徒科学作品展が開催されました。これは科学論文や工夫工作の制作を通して、科学する目、創造する力の育成を図ることをねらいに毎年開かれているものです。

結果は論文の部では流山北小学校1年の伊藤 直さんの「うちのにわのありとははっばのけんきゅう-ありのきらいなはっばのにおいは？」が発明協会千葉県支部長賞、優秀賞に2名、優良賞に4名が選ばれました。科学工夫作品の部では新川小学校2年の小森美咲さんの「虫とりつたのしいな」が千葉県教育研究会理科教育部長賞を受賞しました。優れた成果をあげた学校に贈られる「学校賞」に、流山から2校が選ばれるという快挙を成し遂げました。



市内科学作品展



県科学作品展

シリーズ

小さな森のある学校 八木中学校

八木中学校は、地元では「運河の桜か八木の桜」と評判の桜の樹、花水木、緑陰が涼しいヒマラヤスギ、黄金に色づく銀杏等四季それぞれの美しさに包まれた学校です。正門左手奥にある池には、アカガエルの一帯が生息し、12月から1月にかけて産卵する生態を観察できるそうです。ピオトープ周辺や木々の根元の豊かな養分を含んだふっくらとした土壌は、卒業生が卒業作業でチップを敷地にまき続けた3年生の活動の成果だそうです。



学校のシンボル、ヒマラヤスギ



校庭のイチヨウの並木